

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 7月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	3272100268		
法人名	堀建設株式会社		
事業所名	グループホーム 悠心彩		
所在地	島根県鹿足郡津和野町河村506-3 (電話) 0856-74-2015		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成20年6月12日	評価確定日	平成20年8月7日

【情報提供票より】 (20年6月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 11 月 17 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 9人, 非常勤 12人,	常勤換算6.3 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30000 ~ 39000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	償却期間4年間	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (6月12日現在)

利用者人数	17名	男性	4名	女性	13名
要介護1	7	要介護2	6		
要介護3	2	要介護4	1		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 85.6 歳	最低	76 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	津和野共存病院・増野医院・永田歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くに清流の流れる静かな環境の中に立つホームである。同法人の運営するデイサービスと併設し、利用者間の交流もある。地域とも日常的な交流のほか、自治会の行事への参加など積極的に行われている。管理者・職員は日々理念を念頭において利用者個々の24時間シートを皆で検討しながらケアを行うなど、サービスの向上に努力している。利用者は一人ひとりが役割を持ち、趣味を活かして楽しみながらそれぞれのペースで過ごしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「食事を楽しむ支援」は利用者と全職員と一緒に食事をするようになった。「同業者との職員同士の交流」は研修の場を計画するなど改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・全職員が内容に目を通して意見を出し評価を行った。管理者会議で話し合い、質の向上につなげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は2ヶ月に1回開催されている。ホームの運営状況、利用者の近況や行事、行政からの通達内容などを報告し、ホーム側からの地域への協力要請など行っている。参加者からの意見、要望を事業所の運営に反映している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時には可能な限り管理者が面接し、話を聞いている。面会が困難な家族には随時連絡を行っている。職員の日々の報告や記録からも家族の意見、苦情などを汲み取っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、花見や文化祭、祭りなどの地域行事に積極的に参加している。文化祭では利用者の作品展示や演芸に参加し交流を行った。保育園児や小学生、ボランティアとの交流も行われていて、小学生の遊び場にもなっている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	可能な限り利用者の生活歴を把握し、地域の住民として利用者個々に必要なサービスを提供する、という思いで事業所の理念をつくり上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング、定例会議、勉強会で日々の取り組みの振り返りを行い、理念に基づいたケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的に地域の行事に参加し、交流している。保育園児・小学生との交流もある。野菜を頂いたり、散歩の時に会話したりして交流している。文化祭に利用者の作品を出品した。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員は外部評価の意義を理解し、前回出された改善項目一ひとつについて検討し、改善に努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催され、ホーム・利用者の近況、研修内容、職員の異動、外部評価の報告などされている。メンバーからの意見をサービス改善に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症サポーターづくりに協力し、「介護者の会」の事業への協力と連携を図っている。		
@					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会には可能な限り管理者・ホーム長が対応し近況報告をしている。面会が難しい家族にも最低月一回、現状報告と共に写真を同封した便りを送っている。職員の異動等は広報で知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見は面会時に管理者が話を聞き、対応している。「苦情窓口」を明記し、玄関に「意見箱」を設置している。「運営推進会議」などでも家族の意見・苦情を吸い上げたいと思っているが、不十分だと感じている。	○	家族会へのさらなる働きかけ、独自のアンケートの試みなど検討して頂きたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	労働条件、職員の資質向上を考え、法人間の異動を行っているが最小限にしている。利用者への影響は今の所ない。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は希望に沿って勤務を調整したり、資格取得も支援している。研修内容の伝達は報告会や研修報告書で行われている。内部研修(勉強会)も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同圏域の管理者の連絡会が毎月行われ、意見交換を行うなど交流が持たれている。近々職員の研修の集いも計画されている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学、仮入居、必要時事前訪問が行われている。利用者が早期にホームに馴染めるよう、初期には担当者が一定期間1対1で対応するなど配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「今ある、その人の持てる力」を最大限引き出せるようなケアを目指している。漬物づくりなど利用者の得意な事を教えてもらっている。「利用者の目線で」という立場で支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	記録物や本人の言動から思いを汲み取るよう、努力している。家族からも出来るだけ情報が得られるよう、協力をお願いしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に本人・家族の意向、要望を聞き、職員の意見も反映しながら計画を作成している。計画にはセンター方式を取り入れつつある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ミーティング、勉強会で、利用者個々の「24時間生活シート」を参考にモニタリングを行い、管理者・職員で意見を出し合いながら毎月の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1泊から1ヶ月程度の短期入居の受け入れが可能である。医療機関への受診の付き添い、入・退院時の支援も行っている。必要時併設のデイサービスを利用して頂くなど柔軟な対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診が月2回行われていて、必要時には受診も行っている。「早期発見・早期治療」を心がけ、床ずれが悪化するのを防げたケースもあった。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応については入居時から本人・家族と話し合い、適宜かかりつけ医の指導を受けている。本人・家族の意向を受け入れて対応している。	○	事業所としての方針や体制作りを検討して頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員の採用時研修に盛り込み、日々のミーティングで確認し、必要時管理者・ホーム長が指導している。職員間でも勉強会の時などで率直に気づきを出し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れが利用者のペースを尊重するものとなっている。「歯医者に行きたい」「買い物に行きたい」などのその日の希望にも出来るだけの支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで作った野菜や近隣の方から頂いた物など新鮮な食材を提供している。食事の準備から片付けまで、職員と利用者は共同で作業を行い、同じテーブルで和やかに食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が可能であり、利用者の希望や利用者の状態に合わせた入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を干す人、たたむ人、食事の準備に加わる人など利用者一人ひとりに役割を持ってもらうよう支援している。漬物作り、大正琴の披露など得意な事を行ってもらう場を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の意向を尊重しながら、日々の散歩、ドライブ、その日行きたい所への付き添い、時には地区の行事、イベントへの参加も支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は施錠しているが、日中は開放している。職員が連携して見守りを行っていて、ほとんどトラブルはない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力のもとで避難訓練、消火訓練、通報訓練を利用者と共に実施している。避難、通報訓練は事業所独自でも繰り返し行っている。	○	自然災害などに備え、行政との連携を進めると共に、地域の方との合同訓練も実施して頂きたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士の指導を受けながら、調理師免許を持つ管理者もチェックを行い、献立を作成している。利用者の状態に合わせ、ミキサー食、刻み食等の対応も行っている。一人ひとりの食事・水分量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から共用空間は、木造作りで明るく清潔感にあふれ、風通しも良く過ごし易い。壁面には利用者の作品や行事のスナップ写真、寄贈者の版画や工芸品など掲示されている。和室もあり、ゆったりと過ごせる場になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベッドがあり、大多数の方は便利と言われている。畳を利用している方もある。家具などは馴染みの物が持ち込まれ、写真や自分の作品、花などが飾られ、利用者に合わせて居室になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。